

令和 4 年 6 月 15 日現在

機関番号：32663

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K02042

研究課題名（和文）ケアの脱家族化に関する日仏比較研究

研究課題名（英文）Defamilialization of Care, a Comparative Study in France and Japan

研究代表者

原山 哲（Harayama, Tetsu）

東洋大学・現代社会総合研究所・客員研究員

研究者番号：90156521

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：2018年7月、カナダでの国際社会学会において、日仏の研究者によって、ケアの脱家族化の国際比較研究について検討された。2019年6月、パリ、東京を中心に、日仏の研究者の共同により、インタビュー、および自由記述式質問票による調査を実施し、2020年度においては、これらの調査結果の質的分析をおこなった。

2021年度は、調査結果について、日仏の研究者の間で、フランス語、日本語のテキストの交換をとおして、深化した分析を試みた。その成果として、英語版、日本語版の著書を刊行した。ケアをめぐる境界、家族と社会との境界が、行為主体として高度実践看護師の役割により問われることが明らかにされた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ケアが家族に閉ざされる境界が問われ、社会に開かれるという課題は、フランスのF.ブルジェールをはじめ、欧米の研究者から提起されてきた。本研究では、フランスと日本という社会的コンテキストにおいて、調査研究により解明しようとした。そこで、ケアの行為主体として、家族と社会との境界を脱構築する高度実践看護の役割に留意し、とりわけコーディネーションについて留意した。

本研究の学術的意義は、境界を超えるコーディネーションによる脱構築について、調査をとおして明らかにしたことである。研究成果の英語、および日本語のテキストとしての刊行は、ケアに関わるプロフェッショナルの役割に寄与する社会的意義があると言える。

研究成果の概要（英文）：In July 2018, French and Japanese researchers at the Congress of International Sociological Association in Canada examined international comparative studies on the defamilialization of care. In June 2019, researchers from Japan and France, mainly in Paris and Tokyo, conducted a research by interviews and questionnaire of open questions, and in fiscal 2020, qualitative analysis of these findings was conducted.

In fiscal 2021, we tried to analyze the results of the survey through exchanging French and Japanese texts among French and Japanese researchers. As a result, books in English and Japanese have been published. It was clarified that the boundary for the care, that is the boundary between the family and the society was questioned by the role of advanced practice nurse as an actor of care.

研究分野：社会学

キーワード：脱家族化 ジェンダー 病院中心主義 高度実践

1. 研究開始当初の背景

2017年4月～2018年3月において、原山哲が、フランスの研究者、P. モッセと、フランス労働経済社会学研究所 (Laboratoire d' Economie d' Economie et de Sociologie du Travail, CNRS)、を中心に、「ケアの社会」(Societies of Care, Lessons from Franco-Japanese Comparisons) についてのセミナーを開催したことが、研究開始当初の背景である(東芝国際交流財団助成)。

2018年7月、カナダ・トロントで、原山哲(研究代表者)が、フランス側研究協力者 P. モッセ (P. Mosse) とともに参加し、ケアの脱家族化の調査研究による国際比較研究について検討した。それとともに、フランスの研究協力者、P. モッセの著書を邦訳し (P. Mosse, Une economie politique de l'hopital - Contre Procuste, 2018, L' Harmattan; 原山哲、山下りえ子共訳『地域の医療はどう変わるか、日仏比較の視点から』2019年、藤原書店) 日本看護師からの関心と理解が得られた。

本研究の組織は、フランスと日本の国際比較の調査研究のために、下記のようなものである。

原山哲(研究代表者、東洋大学現代社会総合研究所・客員研究員)

山下りえ子(東洋大学法学部教授)

川崎つま子(東京医科歯科大学病院・患者相談室長)

P. モッセ (P. Mosse) (フランス労働経済社会学研究所・研究員)

C. グルニエ (C. Grenier) (ケッジビジネススクール・教授)

ケアが閉ざされる家族の境界を脱構築し、ケアが家族の外部の社会へ開かれるという問題性は、G. アンデルセン (G. Andersen avec B. Palier, Trois lecons sur l' Etat-Providenc, 2008, Paris, Seuil) J.C. トロント (J.C. Tronto, Moral Boundaries, A political Argument for an Ethic of Care, 1993, New York, Routledge, Caring Democracy, Market, Equality, and Justice, 2013, New York and London, New York University Press) によって考察されている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ケアが家族の境界に閉ざされるのではなく、多様な行為主体に開かれる空間、とりわけ、地域レベルでのネットワークについて、国際比較により解明することにある。

ケアの地域レベルでのネットワークは、F. ブルジェールをはじめとするフランスの社会哲学においても重要な課題である (F. Brugere, L' Ethique du Care, 2013, PUF, 原山哲、山下りえ子訳『ケアの倫理』白水社、2014年; F. Brugere, La politique de l' individu, 2013, Seuil, 原山哲、山下りえ子訳『ケアの社会、個人を支える政治』2016年、風間書房)。

フランスでは、ケアの病院中心主義 (hospitalo-centrisme) から、プロフェッショナルによる在宅ケアへの転換をとおして、広域での、医療、看護、介護のネットワークの形成が試みられてきた(推進機構の地域保健機構 Agence Regionale de Sante の設立)。日本の社会的コンテクストにおいては、フランスの場合と比較すると、在宅ケアにおいて、スペインなど南欧と同様、家族の協力への依存が大きい。

それゆえ、本研究においては、下記の点に焦点を置いた。

1) 問題とされるのは、ケアをされる当事者の脆弱性 (vulnerability) だけでなく、ケアに協力する家族の脆弱性の連鎖。

2) 家族からプロフェッションへのケアの移行だけでなく、家族へのプロフェッショナルによる支え、さらにプロフェッショナルだけでなく、ボランティアの支えによるケアの脱家族化 (defamilialization)。

3) 「脱家族化」のための施策として、ケアの様々な行為主体のネットワーク広域化のためのコーディネーション。

言い換えれば、F. ブルジェールが論じたように (F. ブルジェール、2014、2016、前掲書) 脆弱性は、特定の階層の問題ではなく、全ての人々にとっての課題であり、ケアが社会に開かれるための具体的な方策としてのネットワークという組織の探索を、本研究の目的としたのである。

3. 研究の方法

フランスと日本という異なる社会的コンテクストにおけるケアのネットワークの形成についての国際比較は、2019年6月、パリ地域、東京を中心に、原山哲が、フランス側協力者とインタビュー、および自由記述式質問票による調査を実施した。2020年度においては、これらの調査結果の質的分析を、日仏の研究協力者の共同によって実施することができた。

本研究の方法の第一は、フランスと日本で、ケアのネットワークのコーディネーションの役割を遂行していると想定されるプロフェッショナル、高度実践看護師 (infirmiere en pratique avantee) に対するインタビューである。インタビューは、主要な論点(ケアのネットワーク)を中心とする R.K. マートンのフォーカスト・インタビュー (focused interview)

の方法に依拠している(R. K. Merton, The focused interview, 1956, 1990, New York, The Free Pr.).

そのうえで、フォーカスト・インタビューの結果に基づき、第二の方法として、自由記述式の質問を主とする調査票を作成し、フランスと日本において、それぞれ、30名程度の高度実践看護師に回答を依頼した。高度実践看護師は、フランスにおいては、国家資格のための最初の教育課程の修了したのが2019年9月であった。

フランスで、高度実践看護師の教育課程修了がすでに予定されていた看護師へのインタビュー、修了後の看護師への質問票への回答を依頼することになった。しかし、それは、日本における看護師と比較する場合、大きな問題とはならない。フランスの看護師で、高度実践看護師の教育修了において、その多くの場合、大学での他の多様な研修とともに、コーディネーターの役割を遂行しているからである。すなわち、日本の認定看護師(certified nurse, certified nurse specialist)が、広義に考えれば、高度実践看護師のカテゴリーに含めることができることと対応している。それは、国際比較における制度の多様性の考慮が重要であることの一例であろう。

さらに、フランスの研究協力者、P. モッセの著書を邦訳し(P. モッセ、2019年、前掲書)、日本の看護師からの関心と理解が得られたことは、調査研究の実施において、看護師からの協力を得ることに寄与した。他方、フランスにおいても、P. モッセと原山哲による英語の共著についても(P. Mosse, T. Harayama, Hospitals and the Nursing Profession: Lessons from Franco-Japanese Comparisons, Path to Modernization, 2008, Montrouge, John Libbey Eurotext) 同様に、調査協力に寄与したと言える。

このような調査研究への協力とともに、ケアのネットワークのプロフェッショナルの実践は、フランスのC. グルニエにより、広い意味において研究者の側からの実践への「研究介入」(recherche-intervention) によるとして位置づけられている(C. Grenier, "Promoting " more care " in a compartmentalized and cure oriented healthcare system: Institutional innovational boundary transformations", in P. Mosse (ed.), Professional Space of Care, Emergence of Advanced Nursing Practice in France and Japan, 2021, Tokyo, Trans Pacific Press; 邦訳、山下りえ子(編)『ケアのプロフェッショナルの空間 フランスと日本』2021年、看護の科学新社)

4. 研究成果

ケアは家族の境界に閉ざされるのではなく、多様な行為主体に開かれるという課題の研究について、フランスと日本の異なる社会的コンテクストにおける国際比較から、下記の表のように、研究成果としての要点を示すことができるだろう。

地域ケアのネットワークの形成の日仏比較

	人口の高齢化	家族の私的ケア/ ケアの社会化	ケアのネットワー ク
フランス	高い	ケアの社会化	広域でのコーディネーション
日本	高い	家族の私的ケア	ケアの従事者の確保の問題

ケアは、家族の境界に閉ざされるのではなく、多様な行為主体に開かれるという課題は、調査研究の計画を検討したとき、フランス、日本の研究者の間での議論において、仮説として共通に認識されていた。しかし、高度実践看護師の役割に焦点をおき、インタビュー、質問票による調査を実施することによって、当初の仮説を確認し、より深めることができたことは、研究成果として評価できよう。

単純化するなら、ケアの社会化についていえば、フランスは、他の西ヨーロッパ諸国、北欧諸国に近い。スペイン、イタリアなどの南ヨーロッパは、日本に近いと言えるだろう。J.C. アンデルセンおよび J.C. トロントの議論は、フランスと日本との比較をとおして、高度実践看護師の一例におけるコーディネーションの考察により、深化されたとと言える。

さらに、C. グルニエの提起した、ケアの組織論による「研究介入」は、本研究の英語版の著書、および、日本語版の著書の刊行(P. Mosse (ed.), 2021、山下りえ子編、2021、前掲書)により、研究成果をケアの当事者に公開することで、ケアの当事者の理解が促進されたとと言える。すなわち、研究が研究者のみに閉ざされるのではなく、その社会的意義を獲得することができたとと言えるだろう。

本研究の途上において、とりわけ2020年から、新型コロナウイルス感染症対応をケアの組織論として考察することになった。P. モッセは、C. グルニエとともに2020年4月2日のフランスの日報「リベラシオン」(Liberation)に、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックがもたらした「医療崩壊」(crise sanitaire) についての論稿を執筆した。そして、医療の資源とニーズとの調整は、医療プロフェッション間の境界を超える地域医療のレベルにおける連携であることを論じた。高度実践看護師が、そこにおけるコーディネーターの役割を果たす行

為主体として承認が得られたのかは、今後の研究の継続によって明らかになるだろう。日本においては、ケアの社会化は、家族による私的ケアへの期待のために、その発展は、これからである。これまで論ぜられてきたケアの従事者の不足は、新型コロナウイルス感染症対応においても、再確認されたのではないかと（表参照）。

このフランスでの「研究介入」に対応して、山下りえ子、原山哲は、雑誌『看護』に、下記の特別寄稿をした。

山下りえ子、原山哲「医療における資源とニーズをめぐって - フランスの地域医療計画から」
日本看護協会機関紙『看護』2020年8月号、84頁 - 87頁。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 原山哲 山下りえ子	4. 巻 72
2. 論文標題 ケアとキュアの再統合	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 看護 日本看護協会出版会	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 P. Mosse, T. Harayama	4. 巻 2
2. 論文標題 La pratique infirmiere avancee au Japon: les voies de l'emancipation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Revue de la Pratique avancee	6. 最初と最後の頁 130-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Tetsu Harayama
2. 発表標題 The careers of nurses in France and Japan, a study of "Mix of exit and voice"
3. 学会等名 International Sociological Association, World Congress of Sociology, Canada, Toronto, Session Care Work, RC30 (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 フィリップ・モッセ著、原山哲・山下りえ子訳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 藤原書店	5. 総ページ数 176
3. 書名 地域の医療はどう変わるか-日仏比較の視点から-	

1. 著者名 P. Mosse, C. Grenier, M. Boulongne = Garcin, T. Harayama, T. Kawasaki, R. Yamashita	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Trans Pacific Press	5. 総ページ数 73
3. 書名 Professional Space of Care	

1. 著者名 山下りえ子、M. ブーロンニュ = ガルサン、C. グルニエ、P. モッセ、原山哲、川崎つま子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 看護の科学新社	5. 総ページ数 132
3. 書名 ケアのプロフェッショナルの空間－フランスと日本	

〔産業財産権〕

〔その他〕

セミナー ケアの社会、フランスと日本との比較 https://www.mfjtokyo.or.jp/events/co-sponsored/20190222.html
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	モッセ、フィリップ (Mosse, Philippe)	フランス労働経済社会学研究所	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ゲルニエ、コリーヌ (Grenier, Corinne)	ケッジビジネススクール	
研究協力者	ブーロンニュ＝ガルサン、マリーズ (Boulongne-Garcin, Maryse)		
研究協力者	山下りえ子 (Yamashita, Rieko)	東洋大学法学部	
研究協力者	川崎つま子 (Kawasaki, Tsumako)	東京医科歯科大学病院	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
フランス	労働経済社会学研究所 LEST			